

Die Eiche

ディ アイヘ
<http://www.jdg-chiba.com>



Japanisch-Deutsche
Gesellschaft der Präfektur
Chiba

〒270-2214 松戸市松飛台556-12
Tel./Fax: 047-385-1456

Mail: info@jdg-chiba.com



協会Home Page

新年度を迎えるにあたり 運営委員の抱負を本号と次号で紹介

本橋常任理事-新年度の抱負

2020年度から会計業務を担当しておりますが、ちょうど同時期から新型コロナウイルス感染症により様々な行事が中止、またはオンライン等で開催されるようになりました。そのような状況下、会計監査だけは毎年対面にて行い、直接書類をチェックする作業が行われました。今年も3月30日に無事に監査を終えております。



さて一般会計の今年度への繰越金ですが、100万円ほどあり、健全な状態と言えます。ですが会員数は減少傾向にありますし、昨今の物価高騰を考えると、引き続き会計における経費削減は課題となるでしょう。客観的に会計上の数値だけを見ますと、一番削減しやすいのはやはり印刷費とその郵送費に該当する部分になります。昨年からは少しずつですが郵送費等で経費削減を実行しております。今年後も無理なく、できることから支出を抑え、それが将来運営業務の簡素化にも繋がればよいと考えます。

会員の皆様には日頃よりご理解ご協力をいただき、心から感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

志賀常任理事-新年度の抱負

会員の皆様にはご協力をいただきありがとうございます。

約3年間続いた新型コロナウイルスは、未だ終息には至っていませんが、今年度はオンライン型のみならず、従来型の対面による行事も実施可能になることを期待しています。4月には4年ぶりに開催された全国日独協会連合会総会に監事として参加し、日本及びドイツの多くの協会が活動を再開したことを実感しました。

2023年度は運営委員会の活性化を図り、事業計画に基づき、当協会の原点であるドイツ軍人慰霊祭の開催をはじめ、講演会、イベント等の定例行事の対面実施、そして、ドイツ語講習会及び青壮年

部のオンラインを含めた講演会、各種研究会等による文化・教養行事、また、県内日独関係行事、その他の特別行事への参加、等が計画されています。

そのための運営方法は時代とともに変化していますが、多くの方のご意見を踏まえながらの運営委員会開催、青壮年層の新規会員の拡大、Die Eicheの発行及びHPの改善、ITの活用による交流拡大、経費節減等も重要だと思います。

年齢等に関係なく、会員の皆様がドイツを愛する仲間と気軽に楽しく集い、日独友好親善を図ることのできる任意団体として、コロナ後の新しい協会活動のスタートの年度となるように努める所存です。引き続きよろしくお願いいたします。



勝見常任理事-新年度の抱負

青壮年部、Die Eicheの担当をしています。千葉県日独協会の活動の活性化の為、前述の組織化、ならびに内外への発信力強化を念頭に今年度も活動を推進したいと思っています。青壮年部においては、昨年度発足した各々の研究会の実質活動の充実化、実活動の本格活動を充実、組織内でのドイツ、国内知見についての組織知見を高め、結果、対外発信、各種対外交流含めた活動の活性化をか図る基盤づくりの年と位置付けています。勿論、これらの活動を通じて協会内部における交流の活性化もできる準備を行いたいと思っています。



まず、ドイツ歴史研究に関しては、2023年度もいくつかのドイツ歴史に関する講演会、Nextポトルシップ研究におけるドイツ人俘虜の歴史についての実質的な活動、ドイツ地誌においては、従来、Die Eicheにて「ドイツの街紹介」を掲載してまいりましたが、引き続き、魅力的な都市を調査して会員向けに紹介する動きを加速化したいと思います。ドイツ語研究は、会員にドイツ語知見を持たれている方が多くおられますので知見の内部共有も活性化したいところです。そして日本文化紹介の切り口では、昨年、日本語Stammtischを実施しました。ドイツ語母語者が参加しやすい内容の日本語Stammtischの企画と実施を行う予定です。この活動の暁には、ドイツ人交流との促進の一環を担いたいと思います。

次に活動の外部発信についてこの4月より、千葉県日独協会の外部公開用のFacebookをスタートしました。このサイトでは、千葉県日独協会の活動の内外発信にとどまらず、ドイツ、ドイツ語圏、ドイツに関係する周辺国の時事的な動きも紹介しています。ドイツの最新情報も共有できる場も活性化したいと思います。ご興味ありましたら閲覧ください。2023年度は、昨年度の活動よりさらに活動の充実化を図りたいと思っています。引き続きよろしくお願いいたします。

全国日独協会連合会

出席報告

常任理事兼事務局長 植松 健

4月20日の「レストランMahlzeit」での前夜祭を皮切りに、翌21日「日立大森第二別館」に於いて、全国各地の日独協会が一堂に会し日独交流について話し合う「全国日独協会連合会総会」が4年ぶりとなる対面形式で開催されました。

駐日ドイツ大使館クラウス・フィーツェ首席公使、ペーター・マイヤー独日協会連合会副会長、ユリア・ミュンヒベルリン日独センター事務局長を来賓に迎え、国内26団体、ドイツ2団体の総勢65名が出席されました。千葉県日独協会からは、金谷会長、木戸副会長、志賀常任理事と事務局長の植松が参加しました。柚岡事務局長の開会の辞に続いて故中根猛会長代行に黙祷を捧げた後、東原敏昭会長の挨拶で幕が開きました。



決議事項は、3項目とも賛成多数で承認。前駐独日本大使の八木毅氏が会長代行に正式に就任(決議事項1)し、「適正」との志賀監事からの監査報告を受けた令和4年度決算(同2)並びに令和5年度予算(同3)が共に賛成多数で承認されました。

続いて、参加するすべての日独協会がそれぞれの活動について、歴史・生い立ちや特性、行事や現在抱えている課題や問題点等を交えながら報告がなされました。

昼食休憩の後には、ドイツ日本研究所ヴァルデンベルガー所長による「Zeitenwende(時代の転換)と日独関係」という基調講演が行われました。

総会終了後、会場をドイツ大使館公邸に移してのゲッツェ大使主催のレセプションは、八木毅新会長代行の乾杯のご挨拶と共に開会。レセプションから合流した会員の保坂有里奈さんも交えて、シュパーゲルや美味しいワインを堪能しながら、全国各地から集まった仲間と語り合い実に有意義な意見交換ができました。今回の経験と絆は、今後の千葉県日独協会の運営に必ず役にたつものと思われま



た。パーティーの余韻も覚めぬ翌22日には、2024年にドイツで開催が予定されている「Partnerkonferenz」についての準備会が、日独協会会議室で開催されました。マイヤー副会長とミュンヒ事務局長から2018年の「金沢宣言」からこれまでのドイツ側の活動について説明があり、日独ユースネットワークの吉見代表も交えて参加者全員で活発な意見交換が行われました。最後に来年秋のベルリン開催に向けて、これからも日独双方がより一層密なる連携を取りながら一致団結して遂行していくことを約束して3日間の全日程が終了しました。

ドイツの街紹介

Baden-Badenと近郊のCalw, Stuttgart

そしてStrasbourgまで

現役引退後の65歳を過ぎて、昔のドイツ駐在員時代を思い出すため、6回のドイツ長期ドライブ旅行にチャレンジして、1万キロ以上を走り、印象に残った町の一つがバーデン・バーデンとその周辺です。この町を起点に東へ約30キロ走ると、ヘルマン・ヘッセの故郷のカルフがあります。黒い森に囲まれたカルフは、小さなナゴルト川の傍に木組みの家々とヘッセの生家がある静かな町です。

「車輪の下 (Unterm Rad)」の作品に出てくる、村のニコラス橋や教会は当時の感じを残しています。

更に東へ約30キロの所には、ドイツ南西部の経済の中心都市であるシュトゥットガルトがあり、中央駅の屋根にベンツのマークが立っているほどの自動車の町で、メルセデス博物館やポルシェ・ミュージアムは見逃せません。

また、バーデン・バーデンに戻れば、ヨーロッパ屈指の温泉保養地の雰囲気を楽しむことができ、30年以上前に訪問した当時と変わらない街並みを残していました。

紀元前からローマ人によって温泉浴場が造られ、19世紀には、ビスマルクやヴィクトリア女王や、その他多くの王侯貴族や音楽家などの有名人が滞在したと言われている歴史ある町には、クーアハウス、カジノ、浴場、コングレスハウス、などがあり、休暇の多いヨーロッパ人には最高の保養地です。

心に残った失敗談としては、市営地下駐車場に止めた車を出す時に、出口のバーのところに料金投入口が無く立ち往生し、後ろのドイツ人から親切に、清算は事前に別の精算機で払うことを教えられ、後ろに連なった車からもクレームが無かったことでした。

この町から、昨年、当協会の青壮年部主催により開催された、神戸大学の衣笠講師のオンライン講演会「旧ドイツ領のアルザス地方」の中心都市であるフランスのストラスブールへはアウトバーンで約1時間足らずで行けます。独仏の国境に沿って流れるライン川を渡るとすぐにフランス領内に入りストラスブールです。そこは、昔からドイツとフランスの領土争いに何回も巻き込まれた歴史的な匂いを感じるものの、今は平和な街並みに見えます。通りかか

りの大学生に路上パーキングの小銭をプレゼントしてもらったのも有難い思い出です。EUのおかげで、現在はドイツから周辺国にも簡単に自由に行けることはとても便利です。

既に後期高齢者になった今も、コロナが収まれば、再度、魅力あふれるドイツの思い出の町を巡る夢を持っています。(常任理事: 志賀 久徳)



ヘッセの故郷 カルフの街並み



ベンツ博物館



Baden Baden/クーアハウス



Strasbourg/大聖堂



大学生から親切にいただいた街

ドイツへの想い



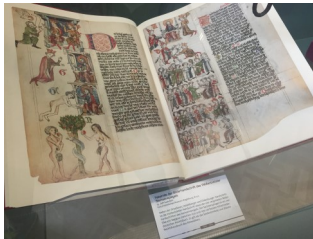
ドイツと私 - 山本 久瑠美 -

こんにちは、昨夏入会させていただいた山本と申します。ただ細く長くドイツ文化周辺を学習しているだけの身にとり今回のテーマでスペースを頂いてしまい恐縮ですが、かの国への縁もとい愛にて本欄への紙幅を埋めさせていただきます（※文化その他の事象に関して主観が強く入っていますことをおゆるし下さい）。

私が最初にドイツへの興味を自覚したきっかけは、高校世界史の資料集中にあらわれる、現在のドイツ地域の地図です。漢字を彷彿とさせる、ドイツ語地名の語構造の要素の明確さと、それとは対照的に千々に裂かれた領邦が時代ごとになす変幻に不思議を覚え、中世の東方植民運動という歴史現象にたいしその関心が焦点を結びました。受験勉強をせず調べたいことを調べる日々之恩師の世界史の先生に喝を入れられながらも、運よく千葉大学史学科に拾ってもらい、そこでドイツへ留学する機会をいただきました。

1か月間のミュンヘンでの語学研修と1年間のハイデルベルクでの交換留学を経験させていただきましたが、エネルギーのほとんどを旅行に費やし、残りの体力で授業に出て宿題をする、といった毎日でした。まわりの留学生がめきめきと語学力をつける一方、私はドイツ語もままならないまま夜行バス内でラテン語の宿題に泣くという蛮行を粛々とこなしていました。帰国後はこの蛮勇が奏功し、卒業論文、東外大での修士論文でのテーマを、ぶれずに中世マクデブルク（ドイツ東部、エルベ川沿いの都市）に据えることができましたが、バスの中で感じた情けなさや悔しさもまた、今の語学学習のモチベーションになっているかもしれません。

大学院を卒業した今は、先述のとおり細々と自学を続けることが殆ど唯一のドイツとのつながりとなっています。もう一つだけ挙げるならば、自分の心に向き合うための空間と沈黙を、日々忘れては思い出すたび、ドイツの空気にふれる気がします。留学終了時、訪れた印として100近くのピンがWGの壁の地図に穿たれましたが、そのピンの刺すいずれの地にも教会があり、怪しい日本人旅行者の私でも、高い乾いた天井のもと、祈ることが常にゆるされていました。祈りも宗教施設もそこへのきっかけも、世界中無数にあるものかもしれませんが、私にとっての導きの糸は、間違いなくドイツです。



ザクセンシュピーゲル/
マクデブルグ



ディンケンスピュール



ボーマン博物館/ツェレ

コインにまつわる歴史

関 昭雄（会員）

外国コインメダル収集は具体的に何を集めるか、が一番大切です。国、時代や年号別、人物、刻印された物（例えば馬、紋章、船・鉄道、記念行事等など）があり本当に多種多彩と言えますし、収集の幅が大きく膨らみます。

明治以降日本でも西洋式貨幣が導入されましたが、天皇を象徴する龍がメインで（少なくとも明治時代に発行された銀貨の裏面）外国コインで多く見られた皇帝・国王像は見られませんでした。流通する過程でコインの天皇像が磨滅、落下で傷がついてしまうことが許されなかったと言われてます。

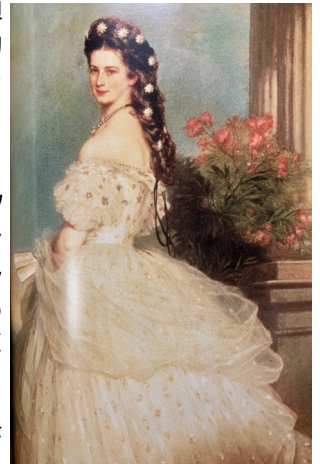
コインは紀元前5世紀頃、小アジアのリュディアで作られ始めたといわれています。マスメディアを持たなかった時代、コインのアレキサンダー大王の肖像は最高の大衆宣伝効果があったと思われます。特にローマ帝国の数々の皇帝たちは自分の顔などをコインに刻印させて自らのPRに勤めたのです。このおかげで今でも、シーザーやネロ、カラカなどの歴代皇帝をコイン上で見ることができるのです。

勿論その伝統を受け継いでいるヨーロッパのコインにも皇帝（ナポレオン、フランツヨーゼフ）王、領主など権威の象徴として刻印されてます。その数、無数にあるので今回はバイエルン生まれの女性に絞ります。

その名はシシー、そう1850年代以降欧州随一と言われた美貌の持ち主オーストリアの皇妃エリザベートです。生まれはバイエルンの名門ヴィッテルスバッハ出身、ハプスブルグの皇帝フランツヨーゼフ一世は、当初姉のヘレーネに求婚する予定がたまたま見合いの席に同席した妹のシシーに一目ぼれ。この時から運命の大きな歯車が動き出します。16歳で結婚することになります。

1854年4月24日、ウィーンのアウグスチーナ教会にて、荘厳な結婚式が挙行されました。この時の様子が銀メダルという形で残されてます。多分参列者への記念品として渡されたものと考えられます。

ここから宮廷生活が始まるわけですが、バイエルンで自由奔放に生きてきたシシーにとって耐えられないほど苦痛でした。名門といっても本家でなく、しかも次女。父親マキシミアン公爵の影響もあってバイエルンの美しい自然の中、乗馬なども含めて自由奔放に生きてきたシシー。自分を変えることはできませんでした。宮廷を取り仕切っていた義理の母ゾフィー大公妃との確執も



シシー肖像画



結婚式記念銀メダル

あり、ほとんど宮廷のあるウイーンを避けるようになり、別荘や数々の地中海旅行、隣国ハンガリー滞在に多くの時間を費やしたのです（当時ハンガリーはオーストリア帝国の一部、その後いわゆる二重帝国となります）。

ただし、皇帝フランツヨーゼフ一世のシシーへの思いはかわらず、旅行中の皇妃へたびたび文をしたためてました。1879年、結婚25年を祝う銀婚式記念銀貨（2グルデン）が発行されたのです。銀婚式のためにこの銀貨が作られたことは、皇帝のシシーへの愛の深さのあらわれであったと思われます。

政治には無関心であったシシーの唯一の例外がハンガリー問題（独立機運が高まっていた）でした。宮廷教育の一環としてハンガリー出身のマイラット伯爵からの影響で、同国に深い関心を持ち、短期間で大変難しいとされているハンガリー語をマスターしました。彼女の働きもあって1867年、オーストリアハンガリー帝国が誕生、シシーはハンガリー王妃となりました。その日、リスト作曲の戴冠ミサが演奏され、リスト本人も指揮者として参加したそうです。

ハンガリーでのシシーへの人気は高く、今でもエリザベートの名を冠した大橋がブダとペストをつなぎ、交通の要衝ドナウ川にかかっています。また夫、フランツ ヨゼフが彼女のために作らせたブタペスト近郊のゲデレー宮殿は、シシーのお気に入りでした。また、ウイーンでの自分自身の側女にも多くのハンガリー出身者を徴用しました。

生前、数々の悲劇に遭遇してきた彼女ですが、シシーの死も突然やってきます。1898年、旅行中のスイスジュネーブ湖畔で遊覧船に乗ろうとしたところをイタリア人テロリストの襲撃に倒れた、享年60歳。ハンガリーでもこの悲劇に深い哀悼の気持ちが示され銀メダルが作製されました。



銀婚式記念銀貨



ハンガリー発行の銀メダル



新入会員紹介（森田耕平）

私は、1942年中国ハルピンで生まれました。中国で10年間生活し毛沢東指導の下共産主義の教育を徹底的に受けました。1953年舞鶴港に興安丸で帰国し、佐賀県で学生時代を福岡県の民間会社で青春時代を過ごしました。

東京に転勤して45年、今ではすつかり千葉県人になりました。

高校野球だけは今でも九州勢を応援します。60才定年後77才まで働きました。

2年間町会長の仕事し、駆け足で走っ



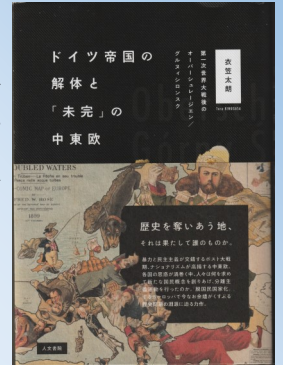
た人生80年これから何をすべきか。佐賀県にある先祖の墓参り、中国黒竜江省に眠ってる姉と弟の墓参り。

2021年10月19日4時の放送で全国に130箇所30万人の外人墓地が在ると聞きました。習志野にも外人墓地があり早速習志野霊園に仏花と富士山の水を持っていきました。ドイツ軍人の墓、日本軍人の墓、ソ連軍人の墓です。墓所管理事務所管理人からドイツ軍人は毎年慰霊祭を行つてると聞き11月23日出席しました。事務局の人と話あって日独協会に加入しました。

これから協会の行事慰霊祭に参加します。微力ながらお手伝いもします。

書籍/Buch

昨年、12月10日に青壮年部ドイツ歴史研究会の活動の一環として神戸大学大学院国際文化研究科 衣笠太朗講師（当協会会員）による「境界地域BOARDERLAND」としてのエルザス＝ロートリンゲンという講演を実施しました。その講演の折、衣笠先生が出版予定されているといわれていた書籍が今年2月に出版されています。



歴史の捉え方として帰属する国家で捉えて記述するのではなく、対象となる地域の住民の意識レベルで捉え、その住民の宗教、言語、歴史的発展経緯を分析するという一貫した姿勢を感じることが出来ます。具体的には、第一次世界大戦後のオーバーシュレージエン（上部シレジア）に焦点を当て、この地域が第一次大戦後、ドイツからポーランドへ帰属が移ったにもかかわらず、住民意識としては、ドイツ、ポーランド双方への帰属意識ではなく、自治を求める住民意識について宗教、言語、自治投票に至る歴史的な事実を詳細に記述されています。境界地域における住民にフォーカスした歴史分析の具体的な事例としてとても興味深い内容だと思います。この分野に関心おありの方に強くお勧めしたいと思います。

衣笠 太朗著 人文書院発行 ¥4,500-（税抜）

（常任理事：勝見 浩明）

今後の予定

■千葉県日独協会総会/講演会

日時： 2023年5月14日 15:30-

場所： 船橋中央公民館 音楽室

■懇親会

日時： 2023年5月14日 18:00-

場所： 今日和 船橋市本町2-1-1

050-5595-6041

会員情報

個人会員 金谷 洋子 千葉県稲毛区

法人会員 医療法人 同和会 千葉病院、社会福祉法人清和会、(株)京葉ビル管理、(株)和幸電気工事

編集後記

協会活動も対面式で行われること多くなり、活動がより一層、活発化すると思われます。同時にオンライン形式による活動の活性化もその目的に応じて実践していきたいと思っております。外部公演、日本語Stammtischをコア活動としてドイツ語母語者との交流を活性化したり、バランス良く、活動を進めるのがよろしいかと思っております。当協会のFacebookは、対外公開しましたが、ぐんま日独協会、香川日独協会、奈良日独協会からのメンバーも参加されました。対外交流含む組織の活性化のコアとなる活動での実績を青壮年部を通じて活性化したいと考えます。勝見